



パラリンピック種目 「ボッチャ」体験

東京 2020 オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染症のため 1 年延期になり、7 月 23 日からオリンピック、8 月 24 日からパラリンピックが開催されました。メダルの数が全てではありませんが、日本選手団はオリンピックでは金 27、銀 14、銅 17、パラリンピックでは金 13、銀 15、銅 23 を獲得しました。オリンピック・パラリンピックとも、栃木県出身の選手が出場し、金メダリストも誕生しました。

障害者スポーツの最高峰パラリンピックは、「もう一つのオリンピック」と言われ、1948 年のロンドンオリンピックの時に初めて開催されました。戦争で負傷した兵士たちのリハビリテーションを目的としたのが起源で、その競技は車イスを使用したアーチェリー競技でした。重度脳性まひ者のために考案された「ボッチャ(Boccia)」は、1988 年のソウル大会から正式競技になり、東京大会で日本は金銀銅各 1 個を獲得しました。

9 月 22 日、コロナ禍のなか「那珂川学」の校外活動が制約されているため、普通科 1 年生が「ボッチャ」体験をしました。最初はなかなか狙いが定まらずに苦労していましたが、慣れるにつれて次第に思った場所に投げられるようになり、素晴らしい投球に歓声が上がり大いに盛り上がりました。戦略、集中力、技術を必要とするボッチャを楽しむと同時に、東京パラリンピック開催の年に障害者スポーツを経験することができました。この日の様子は下野新聞に取材をしていただきました。

ボッチャのルール：

6 個のボールを順番に投げて、ジャックボールと呼ばれる白いボールにいかに近づけるかを競う。ボールは投げても、転がしても、蹴ってもよく、投球フォームは自由。相手のボールを弾いたり、ジャックボールに当てて動かしたりと、戦略性に富んでいる。それぞれ 6 投を終えた時点でジャックボールに最も近づけた側が得点を得る。

<ボッチャ体験の感想> 1 年 2 組 浅野湖々美さん・井上星凪くん



○難しかったところ

- ・白いボールに近づける力加減が難しかった。
- ・狙った所に投げること。
- ・邪魔になっている相手のボールにぶつけてそのボールを白いボールから離すところ。

○楽しかったところ

- ・協力してチームプレイで対戦したところ。
- ・行事が少ないので、普段体験できないパラリンピックの競技を体験できたこと。

